

日本平を “一大学校街”に

静商同窓会関東支部 支部長

吉澤英夫さん

Hideo Yoshizawa



経歴

静岡市葵区両替町生まれ。1963年、県立静岡商業高校卒業。日本銀行に入行。静岡支店をスタートに熊本、名古屋、松江、金沢の各支店や本店で勤務。2000年、同行(本店)を退職。同年、三菱東京銀行本店に再就職し公金の受け払い、振り込み事務などの指導に当たった。07年、三菱東京UFJ銀行(合併で名称変更)を退職。13年、静商同窓会関東支部長に就任、現在に至る。74歳。静岡市立青葉小学校(07年3月閉校、城内小学校と統合し葵小学校に)の一期生。

近年、会費納入者数の減少など、支部運営上のいくつかの課題も浮上し、内部に検討会を設置して対策に乗り出している。

数年後めどに郷里へ

「ハードルは高いかもしれませんが」と前置きし、静岡市の活性化に向け、①日本平地区に東京六大学の学部や専門大学などを誘致し、既存の大学、高校と合わせて同地区を「一大学校街」とする②草薙野球場を本拠地とするプロ野球球団を設立③関西など西日本からの観光客受け入れのため上りの新幹線「のぞみ」の静岡駅停車④「静岡の魅力」を満載した本の出版——を提案する。

「静岡の場合、毎年40人前後が関東地区の大学に進学していますが、静岡に帰って就職する学生はほとんどいません。有名大学の学部などを誘致して地元企業に就職してもらえば人口減対策にもつながるのでは」との思いから、そのための学生の就職活動への静岡市や地元企業の支援なども挙げる。プロ球団については、広島東洋カープのような形態を想定しての提案だ。

吉澤さんは3、4年後をめどに再び静岡市で暮らす意向。「ただ静岡移住を考えた時、東海地震や浜岡原発は大丈夫かという心配がある。関係自治体や国は徹底した対応策や安全策を講じ、それをPRして不安を解消してほしいですね」。

(文・写真：長田義明)

会員千三百人の大支部

県立静岡商業高校硬式野球部の主将(シヨート)を務め、3年生の夏の全国高校野球選手権大会県予選で決勝まで勝ち進んだ。「静岡市立高校に敗れ、甲子園出場は夢はかきませんが、よい経験もさせてもらいました」。

1963年、日本銀行に入行。静岡支店など5カ所の支店と本店で勤務した。熊本支店勤務時には、死者103人を出し

た大洋デパート火災に遭遇。「仕事で先方の常務さんにお会いして帰った1時間後くらいに出火したと聞いて、ヒヤリとした思い出があります」。

4年前に静商同窓会関東支部長に就いた。伝統校だけに会員は1300人を誇る。毎年7月に定例総会を開催、支部会報の発行やゴルフ、テニスなど7つの同好会を通じて、会員相互の親睦、交流を図っている。「総会には毎回200人前後が参加してくれました。昨年、今年は学士会館で開きました」。